

地域をつなぐ循環の取り組み

東京農業大学でつくられた肥料を使って地元の農家が野菜を育て、その野菜を地元の小中学校の給食で食べ、さらにその残菜を東京農業大学に運び「生ごみ肥料みどりくん」をつくるという、食の地域循環を進める取り組みが広がっています。この取り組みを主催する「じゅんかんチャレンジ桜丘」という地元の団体にJA世田谷目黒や町会なども協力し、まちにある農地と東京農業大学、まちの人々をつなぐ循環のモデルづくりを推進しています。

この活動は、2019年10月に「都会完結型生ごみリサイクルシステム [みどりくんプロジェクト]」として、2019年度グッドデザイン賞を受賞しました。



桜丘中学校から給食の残菜を東京農業大学のプラントに運び、肥料にする活動



食の地域循環の図



肥料が使われている桜丘の農地



「生ごみ肥料みどりくん」
使用農地の看板

ウラヌスが
たまにつまみ食い
してるんだぜ。



ウラヌスもお気に入り？！
馬事公苑界わいのみどころ

乗って、見て、体験する シンボル



駒沢給水所の給水塔

●駒沢給水所の「双子の塔」 地域風景資産（第1回）

桜新町駅から、住宅地を緩やかに上る水道みちを東に向かうと、頭に王冠をかぶったような筒型の2つの塔が見えてきます。高さ約30mのこれらの塔は、1924（大正13）年に世田谷区が多摩川から、当時人口が増加していた渋谷町（現在の渋谷区）に安定的に清潔な水を給水するために建てられた水道施設です。駒沢給水所は、砧下浄水場から送られてきた水を塔へポンプで汲み上げて、高低差を利用して渋谷地区に配水する役割を果たしていました。約3,000トンの水を貯められる給水塔は、現在では非常時用の応急給水槽として機能しています。

「双子の塔」と呼ばれ、まちのシンボルとして地域の人々に親しまれています。

本当は「三つ子の塔」だった？！



駒沢給水所には、当初は3つの給水塔が建てられる予定でした。「双子の塔」を眺めながら、3つ目の給水塔を想像してみてもいいのではないでしょうか。（写真：建設当初の給水塔）

●玉電の趣を残す 「東急世田谷線」

地域風景資産 (第2回)

三軒茶屋～下高井戸を南北につなぐ東急世田谷線は、戦前から人々に親しまれた「玉電」の趣を残す2両編成の路面電車です。豪徳寺、世田谷八幡宮、世田谷城趾公園、勝光院、ボロ市通り、世田谷代官屋敷、松陰神社など、史跡巡りにも最適です。

豪徳寺の「招き猫」模様の電車やカラフルな車体は子どもたちにも大人気です。



招き猫をデザインした
「幸福の招き猫電車」

おれのお気に入り、
駒沢給水塔や世田谷線も
知っておいてくれよな。

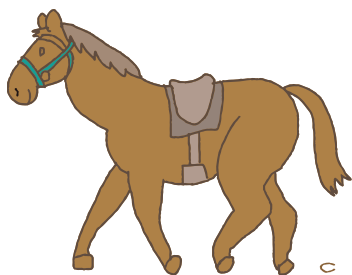


南北に移動するなら、
世田谷のレンタサイクル

コミュニティサイクル「がやリン」

世田谷区内の桜上水南・経堂駅前・三軒茶屋中央・桜新町・等々力の5ヵ所のポートならどこでも、借りて返すことができる「がやリン」。

まちめぐりや、日常生活にも気軽に利用できます。特に、南北の移動には重宝しますよ！



せたがやコミュニティサイクル
システムイメージキャラクター
がやぼー(左)とねこリン(右)

ウラヌスもお気に入り？！
馬事公苑界わいのみどころ

こだわりの住宅地

●新町住宅地を彩る ソメイヨシノ

桜新町駅からサザエさん通りを南下すると旧・新町住宅地にたどり着きます。新町住宅地は、1913（大正2）年に鉄道（玉川電気鉄道）の計画に合わせて開発された分譲住宅地です。中心街路には、約1,000本のソメイヨシノが植えられ、今では桜のトンネルが春の風物詩になりました。この桜が、「桜新町」という地名の由来となっています。



新町住宅地のソメイヨシノ

●桜新町駅前通りの八重桜



桜新町駅前通りの八重桜

4月中旬には駅前通りが八重桜の濃いピンクに染まります。地下鉄「新玉川線（現・田園都市線）」の開通をきっかけに、1979（昭和54）年に、桜新町駅前通り沿いに多品種の八重桜が植えられました。新町住宅地のソメイヨシノと比べて遅咲きな八重桜は、桜新町で長く桜を楽しんでいただけるように、というまちの人々の思いで植えられたそうです。

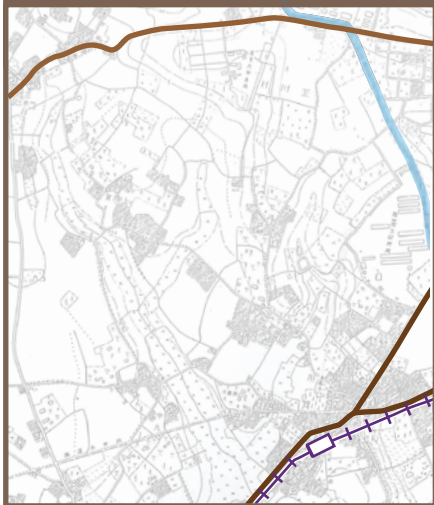
現在、駅前通りでは、4月に「さくらまつり」が開催されています。



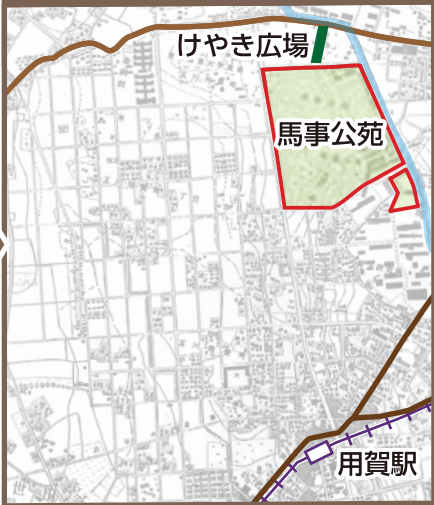
●碁盤の目の街並み

用賀駅周辺の地図を見ると、碁盤の目のように整然とした街並みが広がっています。住民自ら耕地整理事業に取り組み、土地の価値を高めようとした当時の熱意が今のまちの基礎となっています。

耕地整理前（昭和4年）の地図



耕地整理後（昭和30年）の地図



ウラヌスは夕飯時に住宅地を巡って、ごはんの香りを楽しんでいるんだぜ。



探してみよう！^{ていつ}蹄鉄ブロック

世田谷区では、平成30年度に「馬事公苑界わいまちの魅力向上構想」の取り組みに対する寄附金を募集しました。寄附の記念として、寄附者の名前が刻まれた蹄鉄ブロックを製作。馬事公苑界わいの道路や公園に敷設する取り組みを実施し、まちの魅力向上の一翼を担っています。

蹄鉄ブロックをたどって、馬事公苑界わいを歩いてみませんか？



あっ！
これはもしかして、
ウラヌスの足跡？



蹄鉄入り平板ブロック

けやき広場へ行こう！

世田谷区は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会を契機として、「馬事公苑界わい」のハード面やソフト面の街並み整備や、レガシー創出を進める「うままちプロジェクト」を展開しています。その一環として、2019年8月24日(土)・25日(日)に、界わいの魅力を再発見するイベント「うままちプラス」を開催し、会場の馬事公苑前けやき広場は多くの人で賑わいました。

今後も、けやき広場を様々な形で活用し、馬事公苑界わいの魅力づくりを目指します。



ワークショップ



Baji∞ichi 馬事市



出店



もう歩きすぎて
疲ちゃったよ～。

あ！！
やっと見つけた～！



けやき広場で、広場活用の実証実験をしています！

placemaking

特技を披露



映画鑑賞会



ゲーム大会



四季折々の表情を魅せるけやき広場で、いろいろな人と出会い、地域の方々とつながることができる市の実証実験を重ね、公共空間を活用した新たなまちづくりを検討中です。

フォトイベント

私だけが知っている馬事公苑界わいの魅力



「うままちプラス」で実施した馬事公苑界わいを撮影するフォトイベントでは、参加者の皆さまが自由にまち歩きをしながら、風景を撮影。

あらためて魅力を感じ、フィルムに焼き付けました。

